

発行日 \*\*\* 2013年3月1日 e-mail: akutagawa\_dayori@yahoo.co.jp

皆様からの投稿をお待ちしております

着物から服を仕立てます

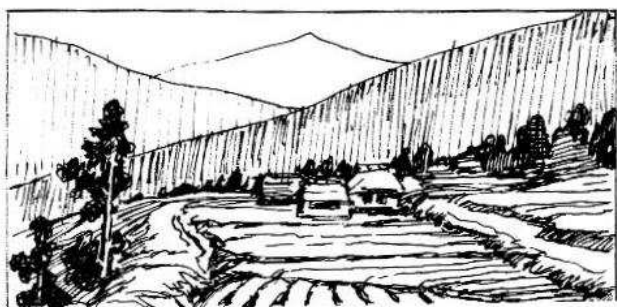
高槻市芥川町2-14-3

Tel 072-681-8870

\*\*\*\*\*

一部50円です

\*\*\*\*\*



## 節句の菱餅

親戚の家に子供がうまると初節句には餅を家について届けて祝ったものだ。赤や青、黄色の色粉を使った大小の菱餅や蓬を混ぜた蓬餅などである。米と赤白の熨斗を掛けた半紙を添えて持つて行くのである。

私が小学生になった頃、叔父の家に長女が産まれた祝いに母と行った時の事である。当時はどこへ行くのも歩きだったので苦にもならなかったが、なにぶん不便な村だったので、めったに行かなかった。しかし、母の末弟の待望の子であったから、母は勇んで前日に餅をつくり背負って出かけたのである。

叔父の家は、山のすそ野の見晴らしのよい棚田の中にあった。家に着き挨拶をしてお茶をいただき、大人たちの話が盛り上がってきた時、隣の家が主人が「初節句ですから、祝いの餅を持ってきました。上手くつけませんでした…」と簡単な挨拶だけをして帰って行った。母は「まあ、丁寧な、ひとりでついちゃったんやろか」とあきれたとも感心するとも取れる言葉を言った。叔母が「せやてや、どないして一人でしちゃったんやろ」と相づちを打った。話を聞くと、隣の主人は、若くして奥さんを亡くし男手一つで子供を養ってこられたらしい。

「無理して、祝いを届けなくてもいいのに」そんな大人たちの雰囲気を感じて、叔母が早速、持ち込まれた包みを開けた。その餅は米粒がいっぱい残っているような餅であった。私は、その餅を見た時、恥かしくなって隠れたい気分になった。顔を背けたくなった。幼心にも餅らしからぬ餅で決して食べたくないようなものではなかった。餅をつく時は、つく人と混ぜる役の2人が素早くしないと、蒸したもち米がすぐに冷え米粒が残るから、一人ではうまく出来ない。

私も、親しい人の葬儀の際に香典の金が都合つかず窮する事があった。義理を欠いてはいけない想いと工面出来ない情けなさで落ち込んだものだ。そんな時、あの出来の良くない米粒が表面から飛び出しそうになった餅を思い出すのである。さぞかし、あの時の主人の気持ちは複雑だったにちがいない。こんな餅しか作れなかった不甲斐なさ、それでも祝いとして届けなければと思う気持ちなど、なんともやるせない迷いと恥じ入る心が渦巻いていただろう、と思ひ返すのである。(嘉)

## 連載 爺捨て山 43

梵店主

先日、新年会に誘われて、病身であることも忘れ深酒におぼれてしまった。

私がその席で自慢げに、聖書を入院中旧新とも読破したと言ったら、親しい先輩から「毎日、家内に困っているのだが、どうしろよいか、教えてくれ」と諸先輩たちの面前で問われた。

私は、すかさず「それは先輩の妄想です。怖いと思っている奥さんは、先輩の化身です。気ままな想いが爆発しないように、漬物石のようにおさえてバランスを取るために、神が使わしたもう一人の貴方なので、から、大事にすべきです」と答えてしまった。

私は、すぐにえらい事を言ったと反省し、トイレに逃げた。酔いにまかせて思いつきを言っただけなのだが、何か後味の悪さを感じた。菓のためか知らないが最近の私は言う言葉の最後に、言わないでいい事を言うてしまう癖が以前にまして強くなっているように思える。

そんな私が、もし娘達に介護をしてもらい最期を看取ってもらうことになったら、どんな言葉でもって娘達を困らせるか容易に想像できる。私の口封じのために、神は如何なる方法を考えられるのだろうか。聖書をにわか読破したくらいで謙虚な人間にはなれないらしい。

八十八の想い

私は、不思議だと思うことが多い。老人会で三社参りをした時に、ガイドさんが「これから、お参りして頂く神社は、一言だけ願い事を言ってお下さい」と言う。

神様の詣で方は、それぞれ好きな場所に立って、さい銭箱に入れ、二礼二拍手一礼して、神に感謝の一礼をして去る、という形が普通だった。神への祈願には私的な願いごとなどするものでない。感謝と国の安泰、世界の平和を祈るだけでいいのだと、祈る心があれば必ず神様に伝わると教えられた。

だが今は違う、やれ金儲け、やれ恋愛成就、健康祈願、入試祈願……「これこれ、あんた何を祈ったの?」「ああ、楽にあの世へゆけますように」

「ふーん、私も同じ」

長い行列に並ぶのはいや、戦時中の、あの行列が目の前に浮かんでくる。

横ちよで手を合わせるだけ、今回も私は、そのようにした。そのまま帰ろうとしたら、「並んでるんですよ」と。「なに、あんたヒマでしょ」と言いたい事をどの顔に向かって言えればいいのかわからない。

孫が言う「おばあちゃん元気だね。そんな事いえるという事は」

「思っただけだよ」と一笑に付したが、納まらない。

ゆっくり生きる

あつ、ちよつと待ててな、もう少し。やつと出た?

誰との会話だと思えますか。トイレの外で私の様子ばかり見て、待ちわびている姿、想像してください。

愛犬、安ベエです。

お待ちどうさん。さあゆこう。引っ張って、引っ張って、また、後を見たり、尻尾が安心感を示しているようで、心もはずむ。

婆さん元気がいいや。ゆっくりついておいで、と話しかけているようです。

足の痛みも、どこかへ飛んでゆき、トテチン、トテチンの歩調も少し順調になり、苦痛も和らいできた。

これも安ベエのおかげかなアー。

元気だそう。そして叶うなら、もう十年、安ベエと共にゆっくり生きてゆきたい、と願うのは欲望だろうか。

心のアンテナを求めて

この世のあらゆる苦を抜きとって下さる京都市上京区西陣に位置する針地藏さん、弘法大師がつくったお地藏さんが様々な苦しみを抜き取って下さる

ことから、信仰を集め、苦を抜くと呼ばれていたのが釘抜きとなつて今の形になり、お参りしているのは観光客というより地元の人を中心で、のぞかな雰囲気があり、私はとっても好きで、都合のつく限りお参りしている。毎月24日、一風変わった印象を与えるようなお寺で、10いろの本堂の周囲をグルグル廻って、念仏を唱えながらの行動、私も何故と、尋ねることもせず、同じようにまねて、竹の棒も20本くらい手にして一周する毎に棒を本堂に納めてゆく。

年齢の数だけ持てと言われても、とってもその数だけ廻ることが私には不可能と勝手にきめて、ほんとうは年齢の数だけ竹の棒(割り箸のようなもの)を願いが叶ったら絵馬を奉納するということ。頃合いを見て、いつ絵馬を納めるのかと聞くと、自分の念願が叶ったら納めてもらっていいということ。

都合のよい日を決めて奉納し、心の念願を叶えたので、ヤレヤレといった

気持ちが現状。

それぞれの願いを込めて、びっしり張りめぐらされた奉納絵馬に表れている。

「アア、あそこにあるつ」と孫の言葉に目を張り本当はその絵馬にホッとすゝる心のアンテナ、楽しみにお参りしていたのも事実。

現代は大分うす黒くなり、私の視野には映らなくなってしまう。自分の年齢が如何に上部にあるかと。でも都合のつく限り、毎月お参りできるのは感謝している。

俳句

土田 裕

畳屋に閉店の謝辞春寒し  
寒明けや水面に浮かぶ鯉の口  
蔭りても紅梅にある至福かな  
外国の力士豆まぐ節分会  
下校児の声にぎやかに春隣

『人気のデザイン』

ねじり襟ブラウス

ゆったりとした襟元で  
ポイントになるので  
評判です

着物から服を仕立てます

梵~ぼん~

## 《闘病記》2

かすかな光

## 梵店主

検査結果を見ながら、「これは、膠原病のひとつである筋炎に間違いない。大学病院でない治療にくい」とおっしゃる先生によっちゃんは「治療せずにいたらどうなりますか？」と聞いた。

先生は「歩けなくなり、そのうち心臓の筋肉がやられる」と答え、「私は65歳で死にたいと考えていますから、死んでもいいですけど」というよっちゃんに「足腰の筋肉と心臓の筋肉は種類が違っていて、歩けなくなるのは2年後であつても心臓がやられるのは5年先かもしれない。その間、たいへんな苦痛を味わうことになる可能性がある」と先生は冷静に答えた。

「治療方法はあるのですか」と訪ねると先生は「ステロイドという薬があつて、効く人には効く。ただ効かない人もある。」とステロイド剤の事を細かに教えて下さった。

よっちゃん「その薬を投薬してください」先生「それは出来ない。ステロイドは副作用の強い薬で感染症にも気をつけなければいけないし、なによりCKの数値が上がっている原因となつているかもしれない見えざるガン細胞がないか充分に検査をする必要がある。このような検査が充分出来る病院は大学病院が一番適している」

よっちゃん「そうですね、これまでかかつていた医者はみなさん、病名がわからん

と言われたので、大学病院でも同じように言われるのではないですか」

先生「それは、診療科が違えば診立てがまるでちがうことによる。消化器科の先生はわりと簡単な診たてをするが、膠原病の先生はねちっこい。時間をかけて根堀葉堀探っていく。科が違えば、診立ての仕方がまるでちがうから同じ医者と考えてはいけない。」

よっちゃん「そうですか、それだけちがうものですか」

先生「私は、消化器科ですが、集中治療室での勤務時、他科の同僚達から勉強させてもらった」

よっちゃん「わかりました。じゃあ、大学病院を紹介してください。ダメもとですから行ってみます」

先生「どこの大学がいいですか？」よっちゃん「家から車でなら行き易いH大学病院がいいです」

よっちゃんにとって大学病院に行くという事は、自分がモルモットになるんだという思いしかなかった。しかし、それでも自分の病気の病名が判るかもしれないということが、かすかな光として思われた。あまり気は進まなかったが、大学病院に行くしかないと考えたのである。

## 義兄とその家族（最終回）

「義兄とその家族」を書き始めた理由の一つは、姉が普通とはまったく違うやり方で、義兄のガンを治したいと懸命にやっていることを書き止めておきたい、と思ったからだ。普通とは違うやり方といっても、ニンジンジュースを大量に飲むだの、体を温めるだの、いわば昔ながらの自然治癒力を高めるという方法で、それ自体に害はないと思うが、どこかで西洋医学を否定しているの、妹としてハラハラするというのか、目が離せなくて、こちらが関心を持てば、当然、姉もいろいろ話してくれて、「書く材料」に困らなかったから、というのが本音だ。それに、姉は主婦としては、かなり変わったキャラクターの主で、「普通ならありえへん」ことを日常的にしている人だから、正直に書いても、読んだ人にびっくりしてもらえぬ。期せずして、物語になつてしまふタイプとでもいうのだろうか。実際、姉のユニークな感覚は、妹の私でも「えつ、そういうことやったん？」と、驚くことが多くて、それを誰かに聞いてもらいたい、という素朴な欲求もあった。

以前にも書いたことだが、義兄の故郷は福島県のいわき市で、そこに何人もの義兄の身内が住んでいるのに、姉はまったく知らん顔を決め込んでいた。



日本中の人が、被災地のために何かしたいと熱烈に思っていた、あの時期に。私は、姉が義兄の身内には関わりたくない、かたくなに思っていて、しかも行けば、義兄が放射能を浴びてしまいうのではと心配しているとばかり思っていたのだが、違っていた。「いま、向こうへ行ったら、(義兄が) コンビニ弁当当し食べられへんやろ。それがイヤやねん」だと。放射能よりコンビニ弁当を忌み嫌っていたとは。コンビニ弁当というのは、食養生ができない、ということの象徴だが、やっぱり姉は、ちよつと普通の人とは感覚が違う。

義兄が発病する前のことだが、姉の家の裏に、タヌキが出没し、狂喜乱舞した姉はせっせと痩せタヌキ一家にエサを投げ与えていた(野生だから、一定の距離以上は近づいてこない)。「見においてえ、可愛いでえ」と自慢しまくった後、姉は言った。「私な、タヌキにいろいろな色のリボンを付けたいねん」。野生のタヌキにリボンって。ペットじゃあるまいし。「そんなことしたらアカンやろ!」と叫ぶ私に、姉は涼しい顔で、「エサ投げたつても、どの子が食べたか、わからへんねん。同じ子オばかり食べてるような気がするねん」。数匹がエサ(チクワなどを投げていたようだ)に群がると、そりゃ、個体の識別不能。

これがネコやイヌなら、ブチとか、多少の毛並みの違いで判別できるかもしれないが、タヌキでは無理だ。それで姉はリボンの色で、「ピンクの子は食べてたけど、ブルーの子は食べてない」。今度は、ブルーに目かけて投げたらな」とわかるようにリボンを付けたいと言ったのだ。普通、そういうこと、思いつくだろうか。

タヌキ一家の方は、リボンを付けられたらかなわない、と思ったのか、もつといいエサ場を見つけたのか、出没しなくなり、姉が近所の奥さんたちに「変なものにエサ、やらんといて下さいつ」と怒鳴りこまれることなく過ぎた。

タヌキ狩りに合ったわけでもなさそうで、たまに、裏に現れて、姉たちを和ませているようだ。もちろん、リボンは付けていない。

こんなオモロイ姉ちゃんの話もいよいよ、今回で最終回とさせていただくことになった。

お陰で、義兄の肺ガンがどうにか治まって、1月の大きな検診で転移がないことが判明。まだ、完全にシロというわけではないらしいが、義兄自身がこんなメールをくれた。

「検査は3カ月毎でしたが、半年に1回に。心臓か肺機能が低下していて、5年前ほどの元気はないが、生活には

何ら差し支えないです。放射線治療は体内ヤケドみたいなもので、回復には時間がかかるようです。〇〇ちゃん(嫁、私の姉のことだ)は都合により、私の健康を勝手に悪くしたり、よくしたりしますので、さほど気になけず聞いて下さい」いつ、どこに転移するかわからないが、一寸先が見えないのは誰しも同じ。「生活に何ら差し支えない」なら、治ったと同じだ、と私は考える。

残された人生の時間を、姉と義兄、面白おかしく珍道中をしていつてくれたら、もう何も言うことはない。

ここで、平和に締め括りたいところが、実人生、そんなに甘くはないのだ。

姉が変、なのだ。「変」は昔からだつたのでは?とわれそうだが、「変」の度合いが違う。暗く、ねじれた「変」なのだ。1月に、「甥っ子とナンバに行かない?」と誘ったときに、姉は言った。「行かない。2度と誘わんといて」。

姉は外食が義兄の体に悪いと思っているが、それにしても「2度と誘うな」と言う言い草はない。

正直に言おう。姉は、そういうお金を使うことがイヤになった、というかできなくなったのだ。

姉一家は、きっちり貯金をしていて、「一生、夫婦で食べていける分はあるねん」と豪語していたが、使わなければならぬお金は、年金生活になっても、

増えるばかり。

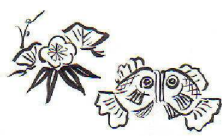
そこそこ高給取りだった義兄だが、厚生年金はみんな減額されているし、とくに、60歳の定年から2年目では大した額にはならない。姉自身の年金は、「毎月もらえるのかと思ったら、1年分だった」と姉が呆れていたぐらいの金額だから、話にならない。

それでいて、医療費はかかり、その何倍ものお金を食養生に使っているうえに、「宗教ではないが、宗教のように信じているT先生の教えを学ぶ」必要がある、それら以外に、「余分なお金は使いたくない!」症候群にかかってしまった、と私は勝手に理解している。何かに腹を立てているみたいに、母の家にもめつたに顔を出さず、当然、息子夫婦、自分の妹弟とも、無駄なお付き合いはしたくないという、あからさまな拒絶ぶり。

いつから?と聞かれると困るのだが、私が気がついたのは、今年になってからだ。その少し前から、息子夫婦を毛嫌いして避けていたから、兆候はあったのだが、今はすべて没交渉。姉妹げんかとか、そういうレベルではなくて、姉は義兄と自分の暮らしを守ることだけに専念すると決め、いまはその世界で充足している気配なのだ。お金のことやつきあいのこと、もろもろのストレスから逃れるため、姉の

取った自衛手段だと思えば、少しわかる気もするが、実際のところはわからない。

しかし、そろそろ春だ。「みんなでお花見に行かない？」と誘ったら、「2度と誘わんというて、と言ったやろつ」と怒られるだろうか。家族の問題は一難去ってまた一難。簡単にハッピーエンドにはならないと諦めて、新たなる一步を踏み出すしかない。こんな終わり方ではスッカリしないが、いつか、私のクレージー姉チャンがその後、どうなったかをお知らせできる日がくるかもしれない。(完)



## 追悼 ああ…キミちゃん

梵店主

1月の一番寒い日に、キミちゃんは86歳の天寿をまっとうして、あの世へ旅立った。

入院して三ヶ月もしないうちに、あっさりと息を引き取ったキミちゃんの死に様は、僕が考えていたようなこの世との別れであった。キミちゃんもきつと清々しい想いであつたにちがいない。納棺さ

れたキミちゃんを見て、僕は「キミちゃん、バイバイ！」と声をかけてしまった。周りの人のすすり泣く声や悲しむ姿の中でも、僕は一向に悲しい想いがしないばかりか、むしろさっぱりとした気分であつた。

亡くなる二十日ほど前に「ヨシ、明日退院して帰るさかい」と電話をくれたので「わかった、わしも明日田舎へ帰るわ」と返事した。

翌日、車を飛ばしてキミちゃんの家に行くとも母親と叔父の重ちゃんが来ていた。キミちゃんは痩せた身体を横たえて、その表情から退院できる病状とは思えなかったが、不自由な病院でのことを思えば、一日でも二日でも自宅へ帰りがたかったのだろうと思ひ直した。しかし、病状から自宅では看護できないから、一晩寝ただけであつた。これが自宅で過ごした最後の時間となつたのだ。

母の妹であるキミちゃんは、僕の理想とする人生を送った叔母である。僕の気持ちにキミちゃんに魅せられるようになったのは、ここ20年ばかり前からである。それまでは、姉である母親の言葉を借りれば「おてんばのそそっかしい子で、小さい時に掃除を頼んだら、すぐに部屋が片付けられていたのでおかしいな、と思ったら押入れに部屋にあつた

ものが押し込まれていてあきれたわ」と言っていた。こんな母の言葉を聞きながらも、僕は、キミちゃんに対してずっと不思議な好奇心を持ち続けていたのである。

キミちゃんの性格は社交的で、誰彼ともなく好かれる開放的な雰囲気を持ち続け、いつも家には近所の人たちがサロンのように集まっていた。けつして余裕のある生活ではなかったが、キミちゃんのやさしい気遣いと楽しい会話に引き寄せられたのだろう。キミちゃんはシルバーセンターに登録しては、近所の仕事をして日々の生活の糧を稼ぎながら周りの人たちに癒しの空間と時間を提供し続けたのである。僕が理想とした「爺捨て山」を自宅で実践し、人生をみんなと共に懸命に生き楽しんだと思える。

金持ちで保守的、閉鎖的な高齢者が多い中、キミちゃんの生き方が異彩を放つ生き様として僕の心を魅了するのはなぜなのだろうか。彼女の金銭などの物事に執着しない自由な精神でもって苦勞が多い生活をしながら、身近な人たちをいつも明るく楽しませる姿を見続けていたからだ。その意味が、今、彼女がいなくなつて僕の脳裏に更にはつきりと「よし、人生を楽しめよ！」とキミちゃんが笑っている顔が浮かんでくる。

## 「迷惑」の来歴

大江雉兎

前回の記事は、公共の交通機関へ大きな荷物を持ち込むことを材料しての雑文だったが、その後、「迷惑」という言葉をめぐって少し考える機会があつた。発端は、文章を読んでくれた方からの感想で「自分の行為が他人に不快感を与えていると言う認識が、行為をする側にあり、かつ受ける側にも被害意識があれば『迷惑』になるが、一方が思うだけだったら『迷惑』にはあたらないのでは？」というものだった。

そのご説に従うとすれば、バスの中へ大きな荷物を持ち込んで人の流れを押し留めていたとしても、自分の荷物が周囲に不都合をもたらしているという自覚がない場合は「迷惑行為」という言葉で表現するべきではないということになる。「迷惑」と言わずに「非常識」と言うとかの方向へ議論を持つていくかどうかはさておき、確かに荷物であれ行為であれ、露骨に嫌な顔をする人が近くにいると「迷惑をかけているな」という自覚も出てくる。それに対してまわりが素知らぬ顔をしていると、なかなか自覚には至らない。「他人から指摘される前に、そのくらいは気づけよ！」といった道学先生からのお言葉が飛び出すところだが、ひと昔なら当たり前だったことがちよつとした気配りと見なされるようになり、さらにそんな気配りが希薄になつ



ているのが現代の風潮だろう。

さて、そんな会話がきっかけとなつて、それでは「迷惑」という言葉は、そもそもどういう意味なのかといったところが気になっていた。日常的に使われる言葉でも、漢字で表現される熟語には、現代語とは異なる本来の使われ方が指摘されるものが少なくない。

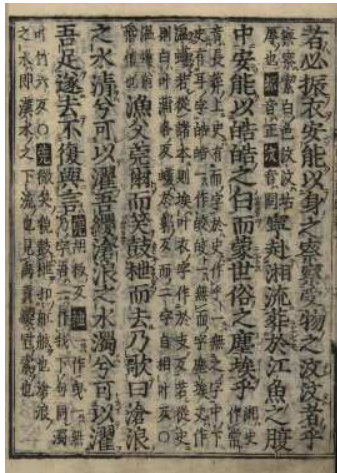
「自由」という言葉の本来の意味はしまりなく好き勝手にふるまうという内容だった云々が、よく知られているケースではないかと思うが、どうやら「迷惑」という言葉も、現代語とは相容れない意味で使われていたらしい。

古代中国の散文に「楚辞」とよばれるものがある。漁夫の利ならぬ「漁父の辞」を含む一群の作品だが、その中に宋玉という官人の「九弁五首」と題された一編があり、「迷惑」が使われている。主君に容れられずして放逐の身となった作者が、秋の情景に託して悲しみを綴ったもので、お目通りがかわず馬車に寄りかかつて涙する場面

を「中<sup>うち</sup>は<sup>ぼうれん</sup>替<sup>か</sup>乱<sup>らん</sup>して迷惑す」と表現している。心の中はかき乱されて戸惑い困惑するばかりとの内容なので、「迷惑」とは、漢字一字ずつに分解した「迷い惑う」の意味であることが分かる。また心情表現ではなく、道に迷うという即物的な意味で用いられるケースも

あり、現代語でいうところの「迷惑する」「迷惑をかける」とはずいぶん異なっている。日本<sup>の</sup>の用例でも、平家物語には贅を尽くした王宮にあがった小心者が「心、迷惑す」といった使われ方が見られ、楚辞の用法に通じる。

こうした一人称的だった「迷惑」が現代語のように他人に不都合を及ぼす状態を指すようになったのは近世のことのようだ。西鶴らの読み本作家をターゲットにした禁令では「御公儀之儀ハ不及申、諸人可致迷惑儀」との文言が見られる。風紀紊乱をもたらす出版は公儀はもとより諸人も迷惑している云々との内容で、そのまま現代語の「迷惑」に通じる。明確な線引きをしてこれ以前は古い使われ方で、これ以降は新しい意味とかの分別はできないのはいうまでもないが、「迷惑」という言葉は近世になって意味や用法が日本的に変えられていった漢語なのかも知れない。



## 米国時代 9 (78年12月〜84年1月)

土田 裕

### 邦人社員

日本の本社とか大阪支社のように沢山の社員と一緒に働いているときは、家族ぐるみの付き合いは特殊なケースを除いて少ないが、海外店の場合も同じ店で働いている日本人が一〇―二〇人(ニューヨーク本店は別として)で、課単位では二―四名なので勢い家族付き合いが多くなる。従って日本では殆ど知ることのないそれぞれの家庭事情も否応なく知ることになった。

海外駐在員の重要な任務の一つは日本から来られる客先の接待だが、これに国内各店のお偉方のアテンドが加わるので、課員の奥さんにも手伝ってもらうことになる。

シカゴのように冬が厳しいところでは通勤にも困難を伴うことがあり、お互いに連絡を取り合って安全確認も怠れない。三〇年以上も前の話でもう時効だと思うので、当時の私の部下に関するエピソードを書いてみたい。

私より一年前に大阪支店より転勤していたA君は甲南大卒、当時三〇歳くらい、電炉用耐火煉瓦、バンダグ更生タイヤなどを担当していた。浅黒く顔が、

有名な黒人歌手に似ていたのでニックネームは「サミー」と呼ばれていた。

「風の街、シカゴ」の項でも述べたが、着任した最初の冬は大変な大雪で通勤には大変な苦勞をした。

ある晩、終業後いつもの通り課員四名で会社の地下のバーで一杯飲み、七時ごろ三々五々帰宅した。一〇時過ぎになってA君の奥さんから拙宅に電話あり「主人がまだ帰ってこないの心配している。電話連絡もないのでハイウェイで交通事故でも起こしたのではないか」という。取りあえずA君宅へ行き、ハイウェイ・パトロールに電話して事故の情報がなければ聞いてみたが、事故は起こっていないという。雪は相変わらず激しく降っていたので、日ごろは快活な奥さんも半泣き状態で、私も途方に暮れてしまった。一二時近くまで待つて、漸くA君が帰ってきた。

「車が途中でエンストしたので、ガソリン・スタンドへ駆け込み、直してもらっていた」とぼそぼそ言った。奥さんは「それならそうとなぜ電話しないの」と怒り出し、夫婦げんかが始まったので、「とにかく無事でよかった」ととりなして私は帰宅した。

その後、分かったことは、地下のバーのウェイトレスでちょっと可愛い女性がいいたのだが、A君は彼女のアパートに行ったらしい。

東京本社から派遣され、彼のアシスタン

トで使われていた研修員の話だったが、全てアシスタントにやらせていた。

証拠もなく、本人が認めるわけもないので、秘密のままとしておいた。ただその後、本人が出張しているとき、たまに地下的のバーから「サミー？」と件の女性から電話がかかってきたので、やはりあの話は事実だったのだと思った。

その後も同君の女性に優しい（だらしない？）性格は治らず、A君が帰国した後、私とは別の部に配属になったのだが、女性関係の良からぬうわさが時々私の耳に入ってきた。

本人の名誉のために言っておくと、仕事は有能で耐火煉瓦商売の利益率は非常に高く物資課の利益に対する貢献度大であった。また人懐っこい性格で電炉メーカーへの出張には時々私も引っぱり出されたが、お客に会ったとたんに「ギブミーオーダー」と素直に言えるなど客先に変好かれていることは分かった。

私より6カ月遅れで着任したB君は東大卒のエリートで、A君の1年上、本店物資部から転勤してきた。私が半年間担当していた自転車、自動血圧計の商いを彼に引き継いだ。商売拡大のための戦略を立てるのがうまく、血圧計の商売は2年間で1千万ドルくらいの商いにまで伸張した。

件の彼女はかなりの美人でその後長い間独身のままだったが、四十歳を過ぎて寿退社した。

### ドルの実力

この原稿を書いている二〇一一年一月時点で為替は一ドル七六―七七円の超円高で推移している。私がシカゴに着任した一九七八年末は二〇〇円近辺、一九七九年になって二二〇円から二五〇円を上下していたので、現在のレートから見れば、大変な円安であった。

東大卒一般に言えることだが、要領がよく支店長に対する根回しに優れていた。また自分で動くのではなく、実務は

出の通貨を円建てとしていた。米国内では円建ての決済はできないので（今でも変わっていないと思うが、当時は市中の銀行で円からドルへの交換はしてくれなかった）、商社がドルに換算して客先に請求することになる。

今のレートから見れば超円安なので競争力があつたと想像されるが、

当時からすでに自転車、繊維などの軽工業製品は後進国に押されて、日本からの輸出では対抗できないので、供給元を台湾などに切り替えつつあった。

あれから三十年経ってドルの価値は六〇―七〇%下落し、円は二・八倍に強くなったことになる。ドルの購買力は二分の一から三分の一になったことになるが、米国の物価がそれだけ高くなって国民が物価高で困ったという話は聞かない。理由は米

国側が付加価値の少ない製品は日本ではなく中国、台湾などからの購買に切り替えたからである。

また本来なら日本の対米輸出は激減しそうなものだが、実際はさほど減っていない。理由は様々あるが、日本企業が生産基地を中国、東南アジアに移して第三国からの輸出に切り替え、日本からの輸出は付加価値が高く技術的にも米国企業に太刀打ち

ちできる商品に集中したことが主たる理由だと思う。また自動車など輸送費が掛かり、関税障壁のある耐久物資は現地生産に切り替わった。

日本が得意とするテレビなどの家電関係はその当時から米国メーカーは生産を止めており、ソニー、パナソニックなどが市場の大半を占めていた。

ところが三〇年経って最近では韓国・台湾メーカーに圧倒されて日本メーカーはその後塵を拝しているという。日本メーカーも供給基地を中国、台湾、タイなどに移しているのが、円高だけが理由ではなく、デジタル技術の進歩でテレビなどは品質格差がない上に、価格は韓国製品の方がはるかに安いからである。

米国駐在中に痛感したのはアメリカで売られている日本の電気製品が異常に安いことであつた。具体的な金額は忘れたが、テレビ、カメラなど円に換算すると日本と同じモデルが三〇―四〇パーセントは安かつた。理由は、米国では当時から流通ルートが簡素化されていて、大手の量販店が日本から直輸入し、直接消費者に売っていたからだと思う。

日本も一〇年以上前からアメリカ化して、家電量販店が市場を席巻するようになった。私は昨年、テレビのデジタル放送化でパナソニックテレビ三二型を四万円で買ったが、同じモデルが発売時には二十万円で売られていた。

### 悪夢ふたたび 3

二月の日米首脳会談はどんな意味があったのだろうか。アメリカ側には歓迎されていた様子はないし、会談では安倍一人がハイテンションでペラペラとしゃべり、いっぽうのオバマはシラケているというか、冷やかな表情であった。会談後の記者会見で安倍は「日米の絆と信頼を取り戻し、緊密な日米同盟が完全に復活した」などと胸を張って自賛する姿は、目を背けたくなるほどケイハク性が発揮されていた。

前ノブタ政権は従米路線まっしぐらであった。オスプレイでも、普天間基地問題でも、TPPでも……。つまり民主党政権のときから、従米という意味では日米関係は良好で緊密だったということだ。安倍政権は日米関係をさらに深化させるということなのか。それが危ないのだ。会見で安倍は、防衛大綱の見直し、防衛費の増額、集団的自衛権行使の容認などの方針を示して、米軍と一体になって安全保障政策を行うことをアピールした。とりわけ集団的自衛権行使の容認というのが危ない。安倍は何としても日本を戦争のできる国にしたいらしい。

集団的自衛権について歴代の政府は、「国際法上、集団的自衛権を有していることは、主権国家である以上当然であるが、憲法第9条の下において許容されて

いる自衛権の行使は、我が国を防衛するため必要最小限度の範囲にとどまるべきものであり、集団的自衛権を行使することはその範囲を超えるものであって、憲法上許されない」と解釈してきた。

この当たり前の見解について、「権利があるのに行使できないとは、わけがわからん」というバカな政治家が少なからずいる。「役人の書いたもんはわけわからん」といったのは大阪市長の橋下だ。武力行使を放棄した憲法9条のどこをどうおしたら、集団的自衛権の行使が可能だという解釈ができるのか。わけわからんというヤツのほうがわけわからん。

集団的自衛権という概念は国連憲章にはじめて登場するが、51条に次のようにある。「この憲章のいかなる規定も、国連加盟国に対して武力攻撃が発生した場合には、安全保障理事会が国際の平和及び安全の維持に必要な措置をとるまでの間、個別的又は集団的自衛の固有の権利を害するものではない」。つまり個別的自衛権にせよ、集団的自衛権にせよ、暫定的な措置であり、例外的位置づけなのだ。集団的自衛権というのはどうもアメリカが自国の軍事活動を正当化するためにつくった概念ようだ。

自衛という名のもとにいかに多くの

戦争がおこなわれ、おおくの人々が殺されてきたことか。アメリカのベトナム戦争でも、旧ソ連のチェコ侵入でも、集団的自衛権の行使と主張した。イスラエルが自衛のためといって周辺諸国を空爆した。アメリカがタリバーンの支配するアフガンを絨毯爆撃したのも自衛戦争だ。イラク戦争のときも、大量破壊兵器を保持しているから「先制的自衛権の行使だ」と説明した。

アフガン戦争のときも、イラク戦争のときも、小泉政権はいの一番にアメリカを支持し、憲法違反濃厚の支援を実行した。日本が集団的自衛権行使を容認することになれば、間違いなくこのようなアメリカの戦争に参加することになる。そして異国の無辜の民を殺すことになる。派遣された自衛隊員が戦死することも免れないだろう。また、イギリスやスペインのように日本もテロの標的にされるだろう。

ところで、小泉が諸手を挙げて支持し支援したイラク戦争だが、けっきょく戦争を起こす原因となった大量破壊兵器は見つからなかった。この戦争に正当性などなかったということだ。批判が高まったイギリスやオランダでは検証委員会がつくられ、オランダはイラク戦争は国際法違反と結論づけている。イギリスでは支持率を大幅に下げたブレアは早期退陣を迫られた。ポーランドは、アメ

リカにだまされたと非難している。

ひるがえって、熱烈に支援した日本はこの戦争を検証した形跡はない。小泉批判が起ころうともない。政権が変わっても、民主党はイラク戦争を振りかえることはなかった。こんな国が集団的自衛権を行使するようになれば、ただ唯々諾々にアメリカのいわれるがまま戦争に参加し、終結した後も戦争について反省や検証もなく忘れ去っていくのだろう。

やはりこんな国に集団的自衛権行使を容認してはいけない。戦争のできる国にしてはけない。憲法は、安倍や小泉のような権力者にこそ縛りをかけておかなければならない。

国連は、集団安全保障によって国際平和を維持しようという理念に基づく。EUのように周辺諸国が協力し合って安全保障を実現しようという考え方である。国家の主権を制限することによって国家の安全を守ろうという発想は、悲惨な戦争を繰り返してきたヨーロッパが到達した智慧かもしれない。自国を守るために強力な武器をもち、周辺諸国と対峙しようという自衛の発想とは真逆である。

安倍には集団安全保障という発想はない。北朝鮮に対しては制裁、中国に対しては封じ込めである。

ああ、この政権の高い支持率を見て、暗澹たる思いに沈む。(猿)